



ROTARY:
MAKING A
DIFFERENCE

FUJIEDA ROTARY CLUB
藤枝ロータリークラブ会報



例 会：毎週水曜日 小杉苑
藤枝市青木2-35-30 TEL:054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL:054-647-2300
FAX:054-647-2040
E-mail: club1972@fujieda-rotary.org

会長:大長 昭子 副会長:島村 武慶 幹事:大塚 高弘 副幹事:玉木 潤一郎

2017-2018年度 R1テーマ
ロータリー:変化をもたらす

♪ソング…君が代・奉仕の理想 第2195回
♪ソングリーダー…平野 純也君 ガバナー公式訪問合同例会/小杉苑

■ 会長報告

大長 昭子君

本日は、お暑い中、松村ガバナーをはじめ岡村筆頭副幹事、金丸副幹事、福島ガバナー補佐、ようこそいらっしゃいました。



この後、松村ガバナーよりご挨拶があります。

地区目標に向けた地域全体の活動についてお話があるかと思えます。

既に新年度はスタートしておりますが、今後のクラブ活動に活かしていきたいと思えます。

8月3日の会長幹事会にて分区分の再編成後、次年度のガバナー補佐は、当クラブの村松英昭会員がお受けすることになりました事ご報告させていただきます。

■ 会長報告

藤枝南RC 江崎 直利君

本日は藤枝と藤枝南ロータリークラブ合同で、松村ガバナー、岡村筆頭副地区幹事、金丸副地区幹事、第五分区分福島ガバナー補佐をお迎えしての例会です



午前中は藤枝南クラブの今期目標と状況を報告させていただきご指導、助言をいただきました。R1テーマは変化をうたってますが、創立27年目の当クラブは、いままでの素敵なこだわりを大切にしながら各委員会がやらなければならないこと・と小さいけどやりたいことを強く意識していきます。そして今年度、当クラブは今期のテーマに決めた「なんだからうれしい」何度も

口にしていきます。「なんとなく」ではなく「なんだから」です。

この「なんだからうれしい」は日頃のRC活動の中に不可欠である「相互の喜び」を公共イメージ向上のため子どもでもわかるように表現した言葉です

今期地区役員、ガバナー補佐におかれましては今日お越しいただいたお礼を申し上げて、なんだからうれしいお役目になることを祈念して挨拶とさせていただきます

■ 出席報告

| 本日のホームクラブ出席者 | 前回の補正出席者 |
|--------------|--------------|
| 32/42 76.19% | 37/42 88.10% |

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○池ノ谷君 ○江崎晴君 ○江崎友君 ○大杉君
○菅原君 ○鈴木舜君 ○仲田晃君 ○松田君
○村松繁君

(2)メイクアップ者

松田 真彦君 (IA) 江崎 晴城君 (IA)
杉山 静一君 (焼津) 池ノ谷 敏正君 (焼津)

■ ビジター

国際ロータリー第 2620 地区 松村 友吉ガバナー
国際ロータリー第 2620 地区 岡村 延昌筆頭副幹事
国際ロータリー第 2620 地区 金丸 好孝副幹事
国際ロータリー-静岡第 5 分区分 福島 吉衛ガバナー補佐



★ ガバナー挨拶

国際ロータリー
第 2620 地区
松村 友吉ガバナー
(焼津 RC)



1. ロータリーの経験

(1) 私のロータリー歴

私は焼津ロータリークラブに所属する、松村友吉と申します。ロータリー歴は、1998年入会で今19年目に当たります。父がチャーターメンバーでしたが、体を壊しロータリーを退会すると言うことで、父と交代で44才の時入会しました。入会式のことは今でも覚えていまして、緊張しながら入会のご挨拶をして席に戻ると、大先輩が寄ってきて「おまえの親父さんの面倒を我々が見たのだから今度はおまえが我々の面倒を見る番だ」と言われ、まずいところに入会してしまった、と大いに後悔しました。実際は優しい先輩たちで、心配することは無かったのですが、あまり熱意も無く、出席率も良くない不良会員として数年過ごしました。ただ、委員長の役が回ってきて、プログラム委員長、職業奉仕委員長、会員増強委員長等を歴任し、だんだんクラブにも慣れてきて、数年前に会長を引き受けました。ただ、地区に出向した経験もなく、ガバナー補佐にもなったことも無い私が、先輩からガバナーの話を頂いたときは、本当にいいのかな、なれるのかな、と考えました。ただ、JCの時から癖で、請われたら直ぐに、はい喜んで、とお引き受けするのがいいことだと思い込んでいて、勢いで受けしまいました。

2年前にガバナーノミニージェグネートになり、不安を抱えながら、2年間地区やRIのことを学んできました。それは密度の濃いい準備期間をいただいたと思っております。

(2) ロータリーの組織で気づいたこと

この二年間、ノミニーとエレクトとしているいろいろな会議に出席し、ロータリーのことを学んでいるうちに、2つのことに気づきました。すでにそんなことは百も承知だよ、という方もいらっしゃると思いますが、私には大変新鮮な発見でしたので、述べてみたいと思います。

1つは、ロータリーには、日本の組織がなく、

我々地区とクラブは直接RIと繋がっているということです。私はJCにも所属していますが、地区会長とかさせていただいたのですが、JCでは、1番中心にあって力のある組織が日本JCで、そこには会頭ほか多くの役員や事務局員が居てしかも霞ヶ関の近くに立派な会館も持っていて、全国のJC組織を統轄運営しています。地区も東海地区や四国地区というように地域の名称が付き、日本JCの統括を受けながらも独立した地域独特の運営をしています。ロータリーには日本ロータリーという組織はなく、RI日本事務局がオフィスを構えて活動していますが、あくまでRIの組織で、独立した日本の組織ではありません。地区はすべてナンバリングと呼ばれ、静岡山梨地区は2620地区と、ある意味、味も素っ気も無い呼称になっています。私たち地区はRIと直接つながり、ガバナーはRIの役員になっています。各クラブは、RIに対して、直接もの申せますし、投票資格も持っています。この組織構造の違いは大変大きく、我々ロータリアンは、よくよくこの組織のあり方を認識する必要があります。

2つめは、ロータリーの役職が単年度制であるなかで、毎年うまく引き継ぎあるいは更なる発展や飛躍をするための仕掛けが、大変絶妙に組み込まれていることです。例えば、ガバナーの引き継ぎの仕掛けで言えば、2年前からノミニー・1年前からエレクトとして多くの会議に出席する仕掛けがあり、また直前前任者のガバナー・エレクトと常に顔を合わせ情報交換する機会が大変多く設定されています。GETSや国際協議会はもちろんのこと、研究協議会やゾーン毎の多くのセミナーで現在もっとも必要とされるロータリーの課題を学び、自分のガバナー就任にむけての事前準備が否応なくできるように仕込まれています。また、クラブにおいても、会長エレクトは会長の補佐役として常にそばに控え、1年間会長としての役割や振る舞い方を身近に見て学び、会長就任時にはある程度の知識と覚悟を持ち合わせるように仕込まれています。このあたりの仕掛けの絶妙さは、やはり発祥の地アメリカの戦略的思考方法がベースにあって100年かけて設計されたものであるように思います。もし我々日本の中小企業が1年発起して世界に打って出てグローバル企業を1から立ち上げようとするなら、このロータリーの組織運営に組み込まれた絶妙な仕組みを真似るといいと思いました。とにかくうまく出来た組織であると思います。

2. イアン・ライズリー会長のテーマ

(1) 「変化をもたらす」の意味と背景

本年度のRI会長イアン・ライズリー氏については、いろいろな機関誌でご覧になっているかと思いますが、再度申し上げます、オーストラリアのメルボルンの郊外にあるサンドリングラムRCのメンバーで、公認会計士として成功している方です。奥さんともに体が大きくまた大変陽気な方です。この方のテーマが、「ロータリー：変化をもたらす」というもので、これについて改めてご説明いたします。変化をもたらす主体はロータリーです。そして、変化をもたらす対象は、2つあります。1つは外に向けて。112年の歴史を持つロータリーはこの間様々な活動を世界中で行ってきて、世界をよりよくするために変化をもたらしてきました。これからも同じように外に向けて我々は活動を展開していくわけですが、特にサンディエゴで言われたのが、行動の大切さです。Rotary In Action という標語をたくさんいただきました。とにかく行動して結果を出していこう、ということです。中でも、END POLIO については、ロータリーとしても大変な成功事例だとしていて、まもなく撲滅が実現し、次の大きな事業に取りかかるタイミングであるが、次の事業もEND POLIOのように、世界的な規模で、他の世界的な機関と協力しながらロータリーの良さや強みを発揮する事業を見つけていきたいと言っていました。とにかく、外に向けてよりよい変化をもたらしていきます、ということです。次に、内に向けての変化です。近年の規定審議会での議論を踏まえて、ロータリークラブの運営方法に柔軟性を持たせ、運営をやりやすくしていこうという動きがあります。これについては、イアン・ライズリー会長から、世界の環境変化への対応が必要である、というお話がありました。世界の環境変化は3つありまして、1. IT化 2. グローバル化 3. 少子高齢化 です。1. IT化は、我々は今や否応なくこの流れに飲み込まれている訳ですが、まずはRIの用意したロータリークラブ・セントラルという情報ツールをクラブで存分に使いこなすこと、更に個人個人でマイロータリーのパスワードを登録して、ロータリー情報を自らやりとりすること、が求められています。この流れは後戻りしませんから、なんとか食らいついて変化に対応していく必要があります。2つめのグローバル化は経済の世界で常に言われることですが、ロー

タリーが200カ国に広がり、123万人の国や言語や生活習慣の違う人々が今やロータリアンとして世界で活動する時代ですから、組織の運営方法についてもこの面からも柔軟性が求められています。昨年の規定審議会で世界の国々の特に発展途上国から、強い要請があったようです。つまり、毎週毎週決まった時間に全員が顔を揃え会合を持つことが、発展途上の国のロータリークラブでは難しいので、もっと柔軟な規定にして、運営方法に幅を持たしてほしい、という要求が通りました。因みに来年のRI会長はアフリカのウガンダの人ですが、先進国ロータリーの意向が100%まかり通る時代では無くなってきた、ということです。

3つめは、先進国における少子高齢化です。これまで長い間ロータリー活動を牽引してきた先進国では、程度の差はありますが、少子高齢化が進んでいます。なかなか会員の数が増えない、増えないどころか減っていく傾向にあります。RIは必死で会員維持増強を訴える背景に、この少子高齢化があります。会員の減少は、直接組織の活力低下になっていきます。

RIはここ15年間会員の増強のために試験的にいろいろな試みをしてきました。その結果、組織運営に柔軟性を持たせ、会費の減額や例会の頻度を減らす等が一定の効果を示した、ということで、RI理事会としても、クラブ運営に柔軟性をもたせることを後押しした、ということです。イアン・ライズリー会長のいう内に向けた変化は、これら時代の変化にうまく対応するために、組織づくりや運営方法に変化をもたらすことも必要だ、という示唆であると思っています。

(2) 私の考え方

私自身、サンディエゴでイアン・ライズリー会長のテーマを初めて耳にした時は、実はあまり大きな違和感を感じませんでした。なぜなら、私自身中小企業の経営者として1番心がけていることが、時代の変化に対応することであり、そのために常に自分の会社にすこしづつ変化をもたらす、商品やサービスそして組織そのものが陳腐化しないようにしているからです。経営者の役割はそこにあって、日々のルーティーンをこなすことは、経営者の第一の務めでは無いと思っています。よくゴルフを経営者仲間ですと、プレイ中常に携帯からいろいろな指示を出している経営者がいますが、その人が後輩なら、ちょっとそのやり方は違うんじゃないの、と言ってしまい

ます。日々のルーティーンをこなすことも大事ですが、大きい流れを捉えて会社運営に変化をもたらすのが経営者の役割であると思います。そういう意味では、今年のイアン・ライズリー会長のテーマは、全く違和感はありませんでした。ただ、これまでロータリーを一生懸命やられてきた先輩のロータリアンから、こんなに規律を緩めていいのか？あるいは、ロータリーの本来の精神も揺らいできているのではないかと懸念が多々示されています。これから会員の増強に力を入れ、若者・女性・あるいはサラリーマンの方々を数多く勧誘していけば、会員の質の低下とか、心配される向きもありよく理解できるのですが、本当に数を絞り、会員数が減少してもロータリーのこれまでの質のみに拘っていくのいいのか、まだここ当分何年かは議論が続くのではないかと思います。私の考え方を聞かれれば、企業経営と同じで、環境に合わせて組織を変化させていき、それがむしろ組織強化に繋がる、というのが私の考えです。やはり、一定の会員数は必要です。私のクラブでは、51年目私が会長の時、初めて女性会員を入れ現在3名、若者も多く入って平均年齢は4才下がりましたし、サラリーマン会員も専門知識を生かし、大いに活躍してくれています。年配の会員もいま一生懸命地区運営を支えています。あまり恐れず広く人材を求め、入会のタイミングでうまく指導をしていくことが大切なのではないかと思います。また、申し上げたいのが、組織運営の方法に変化をもたらしても、ロータリーの精神の根幹は、変えてはならない、ということです。イアン・ライズリー会長もこのことは明確に言われていました。ロータリーの目的、5つの中核的価値、4つのテストは全く変わっていません。変えていくものと、変えてはいけないものをしっかり見極め、未来に向けてロータリーをしっかり牽引して行ってほしいと思います。

3. 未来のロータリーを考える

2018年はポール・ハリス生誕150年、そして米山梅吉生誕150年、さらに2020年は日本のロータリー100周年ということで、100周年記念委員会も出来、これから記念誌が発行され、将来に向けたビジョンが発表されるのだと思います。また、先ほど申し上げた運営方法の変化も打ち出された時期ですから、いま未来に向けてロータリーについていろいろな議論がなされるべき時期ではないかと考えて

います。これは入会したばかりの人を含めて、老いも若きも、ベテランも素人も含めて議論していいのではないかと考えています。確かに、これこそロータリーだという神髄はあるでしょうし、そこに信念を持っている方々もいらっしやるでしょうし、この機会に互いの切磋琢磨も含めて考えを交換し合うことは、大変有意義だと思います。ロータリーの学びの手法に、アイデア交換、というのがあります。サンディエゴの国際協議会の半分の時間は、このアイデア交換に費やされました。

そんな気軽な明るい気持ちで、互いのロータリアンが考えをぶつけ合うのもいいかもしれません。果たして100年後のロータリーはどうなっているのでしょうか？サンディエゴの国際協議会の本会議の最後に、シカゴのEクラブの会員で20代のシリコンバレー経営者が、蕩々と未来のロータリーについて、危機感を交えて語りました。この若者に未来のロータリーを長々と語らせたもの、RIの意思だと思います。われわれも1ロータリアンとして、未来のあるべきロータリーの姿について語り合ってもいいのではないかと思います。これからの若者が入会したいと思うロータリー、この会に入って一緒に活動してみたいと思うロータリーにしていかなくてはなりません。そのためには、まずは我々自身が変わっていくべきなのか、あるいは、日本のロータリアンとして、もっともっとRIに対して言うべきことを言うべきなのか、そして世界全体のロータリアンとしてどんな行動をとっていくべきなのか、話はどんどん大きくなりますが、100年単位の視野で考えることですから、萎縮することなく本音でいろいろ議論出来たら、と思います。是非、みなさんもこの機会を捉え、未来のロータリーについて考えて行ってほしいと思います。

●●ガバナー公式訪問合同例会●●



(担当／鈴木邦君)